

【翻 訳】

トルバドゥールによる 12 世紀の哀悼歌 (planh) の翻訳

高 名 康 文

はじめに

中世の南仏を中心に活躍したトルバドゥールの作品には、貴人や友人、恋人の死に対する哀悼をテーマとするものがあり、哀悼歌（オック語 planh）と呼ばれている。E. シュルツェ・ブザッカが論考の中でまとめているリスト¹によれば、12世紀はじめから13世紀中ごろまでに書かれた29の作品が現存しているが、以下に訳出するのは、1200年以前に書かれたとされている12作品である。12世紀の作品と13世紀の作品に目立った変化はなく、この年代で区切って訳を公開することには、ここに発表するのに適度な分量であるから、という以上の理由はない。1200年以降の作品の訳は今後の課題とする。

底本は M. デ・リケールによる選集²を中心に選定し、これに収められていないものについては、国内の図書館で参照することができる校定本のうち、できるだけ新しく定評のあるものを使用するようにした。翻訳にあたっては、逐語訳で意味が通るようにする、ということを第一に目指した。残念ながら、これと同時に原文がもつ韻文の形式を訳に再現することは訳者の力量では無理であったため、散文訳とした。訳文中の […] は原文にはない語句を補っている箇所であることを示し、 [=…] は直前の語句を言い換えにより説明している箇所であることを示すものとする。

セルカモン (Cercamon)

Lo plaing comenz iradamen (PC112, 2a)³

底本：ed. M. de Riquer, *Los trovadores*, t. 1, pp. 233-235.

死者：アキテーヌ公ギヨーム10世（ポワトゥー伯ギヨーム8世）(1137年没)⁴

詩型：a8 a8 a8 a8 a8 b8 (Frank 17 : 2)⁵

I
悲しく嘆きを始めますが、最初の詩句を歌えば心が悲しくなります。苛立たしく、悲しく、悩ましいのですが、それというもの、あのポワトゥー人の死以来、「若さ」が没落し、「悪」が栄えて「喜び」が廃れているからです。

II
ポワトゥーより出る慣わしだった値打ちと誉れは止んでしまいました。ああ、バルの人々がいかに嘆いていることか。この世に長らえるとすれば、私には苦痛です。主よ、私が話題にしている殿を、よろしければ、天国に置いて下さい。

III
ポワトゥー伯のことで私は嘆いています。彼は、「勲」の仲間でした。「値打ち」と「気前の良さ」が無くなってしまった以上、この世に長く残ることは、私には苦痛です。主よ、あの方を地獄とは無関係にして下さい。あの方の最期はとても立派でしたから。

IV
栄光に包まれた主よ、あなたに不平があります。あなたは私から愛するものを奪いますので。あなたがアダムを創り出したのが本当であるのと同じように本当に、地獄の炎があの方を邪悪に束縛して、燃やしてしまうことがないようにして下さい。この世は私たちを失望させますから。

¹ E. Schulze-Busacker, « La complainte des morts dans la littérature occitane », in *Le sentiment de la mort au Moyen Age, études présentées au V^e colloque de l'Institut d'études médiévales de l'Université de Montréal, sous la direction de C. Sutto*, Montréal : Aurore, 1979, pp. 229-248 (pp. 232, 233, note 6).

² ed. M. de Riquer, *Los trovadores. Historia literaria y textos*, 3 vols., Barcelona : Planeta, 1975.

³ 詩の歌いだしの原文を、ピレットとカルシュテンの書誌 (A. Pillet und H. Carstens, *Bibliographie der Troubadours*, Halle : Max Niemeyer, 1933) による分類番号を付して記している。

⁴ 嘆きの対象となっている死者の没年が分かっている場合は没年を、不明の場合は推定成立年代を記すものとする。

⁵ 各連の韻律と、I. フランクによる詩型の分類番号 (I. Frank, *Répertoire métrique de la poésie des troubadours*, 2 vols., Paris : Champion, 1953-1957) を示している。

V

私はこの世を大変悪く思っています。この世は貧しい者も富んだ者も気にかけることはありませんから。ああ、私の友は皆、去ってしまいました。私たちは皆、この世に惨めにも残っています。でも、最後の審判では、悪人が善人から分けられることを私はよく知っています。

VI

雅なことで名の通ったガスコーニュ人たちよ、あなた方は主君を失ってしまいました。辛くて苦勞の多いことに違いありません。そのために、「若さ」が惨めだといっています。頼るべき人物を見出さないからです。喜びを獲得したアルフォンソ⁶を別にしては。

VII

ノルマン人とフランス人もこのことを嘆いています。王も大変にお嘆きに違いありません。あの方は王に自分の土地と子孫を残したのです。これだけ広い土地が増えたのですから、王がサラセン人に向かって馬を駆って現れないとすれば具合が悪いというものでしょう。

VIII

リムーザン人とアンゲーモワ人のうちで、誰の悲しみにもお構いなして、このことを喜んでいる者たちは、あの方が生きていて、神がそうなることを喜んだのであれば、すぐにでも打ち負かされてしまったことだろう。こやつらは、あの方が神に召されたので、救われたのだ。そのせいで、オニス⁷に悲しみが入って来たのです。

IX

この哀歌はよい題材で出来ているが、セルカモンがエブロ殿⁸に送ったものである。ああ、ガスコーニュ人がどれほど嘆いていることか。スペイン人もアラゴン人も。聖ヤコブよ、あなたの前に巡礼者として横たわる騎士のことを思い出して下さい。

ギラウト・デ・ボルネーユ (Guiraut de Borneil)
S'anc iorn agui ioi ni solatz (PC242, 65)

底本：ed. R. V. Sharman, *The cansos and sirventes of the troubadour Giraut de Borneil. A critical edition*, Cambridge: Cambridge University press, 1989, pp. 404-409.

死者：ラインバウト・ダウレンガ (1173年没)

詩型：a8 a4 a8 b8 b4 b8 c8 c8 (Frank 72:2)

I

かつては、喜びや気晴らしがありました。今の私は悲しく、永遠に絶望しています。というのも、私が喜びを取り戻すと運命は語ってくれませんから。喜びはいつも私を避けて向こうに行ってしまう。悲しみと心配だけが私に留まり、両脇に痛みを与えるのです。

II

辛い星の下に生まれたものだと思います。私に親しい良い友達の誰かが、他の人ほどに生きることを、神はお喜びになりませんから。私のイニャウレ⁹についても、そのようになりました。あの方はもういません。まず、「私の喜び」¹⁰がいなくなって、私の悲しみは始まったのですが、それに続いての出来事でした。

III

今、あなたは傷ついた男である私の心を少し励ましてくれます。イニャウレよ、あなたが私を愛してくれたのですから。しかし、またこの時、私は気を落とすことになるでしょう。あなたを見ることはありませんし、いつも喜びが私のところにやって来た方角から、挨拶も雅な使者も来ないのでから。

IV

ああ、学識深い良き友よ、あなたは愚か者に対しては愚か者のように、思慮深い人には教養と知恵のある人のように振舞いました。あなたのせいで、私には四月と五月も、心地良い陽気な季節もどうでもいいのです。私の心が晴れることは決してないでしょう。また、喜んで歌うことはないでしょう。でも、他の方法では、あなたのことを十分に嘆くことができないのです。

⁶ カスティリアのアルフォンソ7世か、トゥールーズのアルフォンス・ジョルダンのことであるという。(Voir ed. M. de Riquer, *Los trovadores*, t. 1, p. 234, note 36.)

⁷ ラ・ロシェルを中心地とする地方のこと。

⁸ トルバドゥールであったヴァンタドゥール副伯エブル2世(エブレス・デ・ヴェンタドゥール)のことを指す。(Voir *ibid.*, p. 233.)

⁹ 「イニャウレ」はギラウト・デ・ボルネーユの複数の作品に言及されているが、トルバドゥールのラインバウト・ダウレンガを指すものとされている。(Voir ed. R. V. Sharman, *op. cit.*, pp. 8-10.)

¹⁰ ギラウトの友人か庇護者か女性の一人であるという。(Voir *ibid.*, p. 10.)

V

ああ、お持ちであった良い知識を、あなたは誰に残して行ったのですか？ 今後、あなたに匹敵する人が見出されるなどということがあるのでしょうか？ ただ一人の男性があればほどの事業をなすのを私はかつて見たことがありませんし、これからも見ることはないでしょう。そんなに遠くまで行くことはできません。また、知識の点でオリヴィエがあなたほどに優れていたとは、騎士たるものは言うべきではありません。

VI

今や、素敵な馬鹿騒ぎは絶え、さいころ遊びや贈り物や雅な愛の奉仕は忘れ去られました。あなた [の死の] せいで、値打ちは地に落ちて衰退します。ヴレの向こうまで、たくさんの優れた人たちが惨めになるでしょう。あなたは正しい振る舞いを身につけた人として、彼らの導き手であり、仲間であったのです。

VII

あなたの完璧な作詩法、善良さ、値打ち、分別、豊かさ。今、最悪な状態の人たちも、それがもしあれば、お陰で大いに陽気になることでしょう。これについては、私はどうしてもうまく語るができないでしょう。あの名人のペランジェでさえ、お世辞を言っているようになってしまおうから¹¹。

VIII

あなたにおいて、値打ち、高貴さ、気前のよさ、良い行い、良い物言い、良い気晴らしは死んでしまいました。こう言ってよろしければ、私は信仰にかけて、神がその真実の聖なる喜びのうちにあなたを最初に迎えないなどとは決して信じないでしょう。神はあなたに、あれだけ良い贈り物の全てを与えたのですから。

IX

人々は今やこう言っています。あなたのせいで、プロヴァンスはすばらしい功績から離れてしまいました。あなた程に、功績をあげることに熱心な人はいませんから。

X

高貴な麗しき殿よ、たとえ鋼で出来ていたとしても、私の心はばらばらになってしまうことでしょう。

ギエム・デ・ベルゲダン (Guilhem de Berguedan)
Consiros cant e planc e plor (PC210, 9)

底本：ed. M. de Riquer, *Los trovadores*, t. 1, pp. 535-537.

死者：ポンス・デ・マブラナ (1180年頃)

詩型：a8 b8 b8 c8' b8 d8 e8 e8 c8' (Frank 678 : 1)

I

物思いに沈んで歌い、嘆き、泣くのは、悲しみが私の心を掴んで奪ったからです。私の侯、マブラナの勲であるポンスが亡くなりましたから。殿は、高貴で、気前が良く、雅やかで、振る舞いは素晴らしく、トゥールの聖マルタン大聖堂から [...] と平地¹²までで最も素晴らしい人たちの一人とされていました。

II

長びく心配と大きな苦痛を私たちの国に残していきました。慰めはありません。マブラナの勲であるポンスはもういないのですから。異教徒どもがあの方を殺しました。しかし、神があの方を御許に連れて行きました。あの方を大きな罪、小さな罪から守って下さることでしょう。天使たちが証人になってくれたのです。あの方は、キリスト教の信仰を支えてきましたから。

III

候よ、もし私があなたについて愚かなことや、卑しい言葉や、それから悪いことを言ったとしても、それは全て嘘であり、間違いでした¹³。というのも、いかにあなたの先祖が富んでいたとしても、神がマブラナを築いて以来、あなたほどに値打ちがあり、勲高くて値打ちのあって、並み居る貴人たちに増して尊敬を受けた騎士がいたことはありませんでしたから。このように申したとしても、お世辞からでは全くありません。

IV

候よ、もし神の気にいったのであれば、私は望んだことでしょう。あなたがマブラナから去ってしまう前に、あなたの憎しみと、私たち二人の間にあった怒りが、善意により静まることを。あなたの助けになれなかったので、私は心悲しく悲嘆に暮れています。ふざけた輩を相手にして、恐怖のせいであなたのために役立てない、などということはありえなかったでしょうから。

¹¹ 恐らくは、プロヴァンス伯ペランジェ三世 (在位1167-81) を指すという。(Voir *ibid.*, pp. 408, 409.)

¹² [...] は写本からの読み取りが不可能な箇所。作者がカタロニアの人であり、トゥールがそれよりも北に位置する以上、不明の部分には地名が入り、それに続く平地と共にカタロニアよりも南に位置することになる。平原は、アンダルシアの平原のことと考えられる。(Voir ed. M. de Riquer, *Los trovadores*, t. 1, p. 535.)

¹³ かつて、自身のシルヴェンテス (« Cansoneta leu e plana » など) でポンスをからかったことを述べている。

V

天国の一番良い場所、良きフランス王がいるところ、ロランのそばに、マブラナの私の候の魂があることを、私は知っています。私のリポレス生まれのジョングルールも、私のサバタも同様です。彼らは、高貴な婦人たちと共に、花に覆われた絨毯の上で、ローザンヌのオリヴィエ殿¹⁴と共にいるのです。

ベルトラン・デ・ボルン (Bertran de Born)

Mon chan fenisc ab dol et ab maltraire

(PC 80, 26)

底本：ed. M. de Riquer, *Los trovadores*, t. 2, pp. 702-706.

死者：若ヘンリー王 (1183年6月11日没)

詩型：a10' b10 b10 a10' c5 c5 d5 c5 e5 f5' f5' c5 c5 c7
(Frank 576:1)

I

私の歌は悲しみと苦しみと共に、永久にお終いになります。もう止したことにします。かつて母親から生まれた中で最良の王と共に自分の理性と喜びとを失ってしまったので。気前よく、雅やかな話しぶり、乗馬に秀でておいで、美しい所作、謙虚な様子は、大いなる誉れとなっていました。悲しみがあまりに私を苦しめるため、私は死んでしまうと思います。あの方のことをずっと話しているものですから。神にあの方のことをお願いします。聖ヨハネのところに置いてあげてください。

II

殿よ、もしもっと生きていれば、宮廷人たちの王となり、勲高い人たちの皇帝となったことでしょうに、あなたは「若王」の名を持っていましたし、若者たちのリーダーであり父のような者であったのですから。鎧と剣、美しいバックラム織、兜と旗、胴衣に衣装、喜びと愛は、それらを手入れして守る人を失ってしまいました。何故なら、彼ら [= 若王の仲間] はあなたをあの世に追って、あなたと共に立ち去ってしまうでしょうから。全ての完璧で豊かな行いと共に。

III

雅なもてなしと、移り気な心からではない饗応、見事な受け応えと、「よくおいで下さいました」、高価で立派に

手入れされた屋敷、贈り物と武具を与えることと、誤ちを犯さずにいること、ヴィオールと歌の音色と共に、最良の者の中でも勇敢で強い立派な仲間と食事をする、こういったことの全てがこの卑しい世界で引き止められることなく、あなたたちと共にありますように。私たちにみせかけの良い顔をした一年が不幸なものであったが故にそう望みます。

IV

殿よ、あなたには何も責めるべきところがありませんでした。というのも、万人が、かつて盾を持ったことがある王の中で最良の者として、また、馬上槍試合における最も勇敢で最良の騎士としてあなたを選んだからです。ロランの時代から、いや、それよりも前の時代から、これほどに勲高く、戦いに秀でて、これほどにこの世における名声が世界に広まった人、この世に新しい生を与えた人が見られたことはありません。たとえ、ナイル川から太陽の沈むところまで、そのような人を、ありとあらゆるところを見て探したとしても。

V

殿よ、あなたのために喜びを絶とうと思います。あなたを見た全ての人たちは、あなたのせいで悲しく押し黙っているに違いありません。今後、喜びが私の悲しみを晴らすことが決してありませんように。イングランド人もノルマン人も、ブルトン人もアイルランド人も、ギユイエンヌ人もガスコーニュ人も、アンジューの町も、メーヌの町もトゥールの町も損害を受けています。フランスも、コンピエーニュまで存分に泣きなさい。フランドルも、ガンからウィッサンまで。アラマン人ですら泣くがよい。

VI

ロレーヌ人もブラバン人も、馬上槍試合をする時には、あなたに会えないので悲しむことでしょう。

VII

私は、この世もそこにいる人たちのことも、ブザン一枚にも¹⁵、どんぐりの棘ほどにも評価しません。

VIII

賞賛に値する善き王の辛い死のせいで、我々皆が損害を被るのは当たり前のことだから。

¹⁴ 南フランスで成立した『ロンサスヴァルス』で、ロランの親友オリヴィエはこのように呼ばれている。(Voir *ibid.*, p. 537.)

¹⁵ ブザン(besan)は、もともとはビザンチンで鑄造された銀貨または金貨で9世紀からヨーロッパに流通したものだが、南フランスにおいては硬貨一般を言い表すのにも使われるようになった。ここでは価値の低い硬貨のことを言っているものと考えられる。(Voir ed. W. D. Paden, Jr. T. Sankovitch and P. H. Stäblein, *The Poems of the Troubadour Bertran de Born*, Berkely - Los Angeles - London : University of California press, 1986, p. 223.)

ベルトラン・デ・ボルン (Bertran de Born)
Si tuit li dol e'lh plor e'lh marrimen (PC 80, 41)

底本: ed. M. de Riquer, *Los trovadores*, t. 2, pp. 706-708.

死者: 若ヘンリー王 (1183年6月11日没)

詩型: a10 b10 a10 b10 c10 d10 d10 e10' (Frank, 427 : 2)

I

この悲しい世界でかつて聞こえた悲しみと嘆きと苦痛と、痛みと惨めさの全てが集まったとしても、イングランドの若王の死と比べれば全く軽く見えることでしょう。このせいで、「値打ち」と「若さ」とは、暗くて色褪せた闇の世界に、あらゆる「喜び」から切り離されて、悲しみと不安に満ちて、嘆きながら留まっているのです。

II

宮廷の傭兵、愛想の良いトルバドゥールと旅芸人は、辛く、悲しく、苦痛に満ちた状態で残されました。彼らにとって「死」はあまりに致命的な敵でした。彼らからイギリスの若王を奪ったのですから。最も気前の良い人も、あの方に比べれば物欲しげでした。この損害と比べれば、今後、この世には嘆きも悲しみもないでしょう。また、これまでであったと信じてはなりません。

III

苦痛に満ちた破壊者である¹⁶ 死よ、どの国にかつていた騎士よりも優れた騎士を世界から奪ったことを自慢するがよい。「値打ち」にとって必要なもので、イングランドの若王が完全な形で持っていないものは何もないのですから。こういう物言いが神様の気に入ってくれば良いのですが、かつて優れた人たちに対して嘆きと怒りしかもたらしたことの無い他の多くの鬱陶しい人たちが生きているよりも、あの方が生きている方が良かったでしょう。

IV

この苦痛に満ちたつまらない世界から、あの方の愛情は去ってしまうですから、あの方がもたらした「喜び」を、私は虚しいものだと思います。痛切な悲しみに転じないものは何もありません。この世は日々、墮落します。昨日よりは今日の方が値打ちがありません。万人が、イン

グランドの若王を見習いますように。あの方は、世界の優れた人々の中で一番熱高い人だったのです。今や、優雅で愛想の良いあの方は去ってしまいました。そのせいで、悲しみと嘆きと怒りが起こっています。

V

私たちの苦痛を見て、私たちを苦境から助け出すために、喜んでこの世にやって来て、私たちを救済するために死を受け入れた方よ、善意に満ちた正しい主君と思い、お慈悲を乞います。よろしければ、真実の贖罪者として、イングランドの若王の罪を許して下さいますようにと。そして、あの方を栄誉ある仲間と共に、かつて嘆きがあったためしがなく、今後悲しみが生じないだろう場所にいさせてくれますようにと。

ベルトラン・デ・ボルン (Bertran de Born)

A totz dic qe ja mais non voil (PC80, 6a)

底本: ed. G. Guiran, *L'Amour et la guerre. L'Œuvre de Bertran de Born*, 2 vols., Aix en Provence : Publications Université de Provence, 1985, t. 1, pp. 431-444.

死者: ブルターニュ公ジョフロワ二世 (1186年8月19日没)

詩型: a8 b8 b8 c8 d8 e8 d8 c8 (Frank 758 : 1)

I

皆に言います。私はこれ以上生きていたくありませんし、私が死ぬ日ほどに大きな喜びを持つことはないでしょう。この世で私のラサを失ってしまった以上、あの世であの人に再会しているということであれば良いのに¹⁷。ああ、殿よ、あなたなしに留まっているので、私の心はずっと悲しいことでしょう。あなたの後を追う時まででは。

II

私の心も目も溶け落ちてしまいます。落ちて行く涙と、心に抱える耐え難い痛みのせいで。殿よ、聖人たちがお仕えしている主が、あなたを共に連れていったと聞いたものですから。皆で神に祈りましょう。慈愛により、あなたを救済に導くようにと。

¹⁶ 「破壊者である」と訳した原文の estenta の解釈を巡る問題については、ed. G. Guiran, *L'Amour et la guerre. L'Œuvre de Bertran de Born*, t. 1, pp. 265, 266を参照。

¹⁷ 原文は、« Pos sai hai mon Rassa perdut. / Lai lo volri'aver cobrat. »。「私のラサを失った以上、[今生きていることに意味はない。私も既に死んでしまっていて、]あの世であの人に再会しているということであれば良いのに。」というように、[]で囲まれた部分を補って解釈する。

III

真実の伯よ、私は望んでおります。アレクサンドロス大王が、あの世であなたを仲間とすることを。オジエもカンブレのラウールも、ロランも持てる力と共に、その親友のオリヴィエと一緒に。アトンも、エストゥーも、ネームも、オリスタンも¹⁸、オランジュのギヨームも、世界で最も優れた者とされる人たちのうちで最も評価の高い人たちも。

IV

リエイダからヴェルヌイユまで、アルプスからロンスヴォーまで¹⁹、海の向こうにもこちらにも、盾を持った君主の中で、あれほどに良い評判で自らを高めた方はいませんでした。もうすぐ銀には錫ほどの値打ちがなくなりそうです。あの方が満ち溢れさせた銀を、人々はたくさん持つようになっているでしょうから。

V

もし、ブルトン人たちが、待っており、変わらず待ち続けるであろうカーライルのアーサー王が²⁰、この世に戻ってくる力を持っていたとしても、ブルトン人たちは損となり、我らが主の得になることでしょう。もし、神が[アーサー王に加えて]ゴーフアンを返してくれたとしても、彼らから[ラサを奪ったことに加えて]さらに奪うことなしに、そのような埋め合わせをすることはないでしょう。

VI

神があの方を宮廷に迎え入れるとすれば、それは神自身の誉れとなるでしょう。これほどの値打ちを得た、これほどに傑出した人物を、神は持ったことはないし、これほどに良い方を、私は知りませんから。というのも、思い上がった人たちも、高貴な人たちも故意に遠ざけているものをあの方は持っていて、あの方を見た人たちから二重の賞賛を受けていましたから²¹。

VII

「値打ち」は[運命の]車輪の輻^やを持っていた伯のせいで頂の高みを下ってしまいました。「若さ」は不安になってしまっています。恋人たちはその頭目を失い、豊かで尊敬される馬上槍試合の出場者たち、芸人、外国人の傭兵、夫人たちは、最も教養のある人を失い、また、金貸したちは、最も信用した人を失ったのです。

VIII

王たちの王 [= 神] が、尊敬を集めた伯を、その美德の故に、そばに引き留めておいて下さいますように。万人があの方のために溜息をつき嘆いています。神はあの方をあの方で飾り、この世の価値を下げましたから。

ラインバウト・デ・ヴァケイラス

(Raimbaut de Vaqueiras)

Ar pren camgat per tostemps de xantar

(PC392, 4a)

底本：ed. J. Linskill, *The poems of the troubadour Raimbaut de Vaqueiras*, the Hague : Mouton, 1964, pp. 285-288.

死者：不明（貴婦人）（1190年頃）

詩型：a10 b10 b10 a10 a10 c10 c10 (Frank 495 : 5)

I

今、私は永久に歌うこと止めます。楽しみごとくも、喜びも、陽気なことも打ち捨てます。今後はずっと心配事を持って、悲しく悩んで生きていきます。そうすべきなのですから。何か不都合であるような点をあげつらって責めることなどできない彼女が亡くなってしまったのですから。楽しみごとくも歌も、今後は私とは関係がありません。

¹⁸ この作品を伝える唯一の写本において、「持てる力と共に [...] オリスタンも」と訳出した部分は、音節が足りなかったり（作品全体の20行目）、意味をなさなかったり（21行目）、うまく読み取れない固有名があったり（22行目）するため、様々な読みの試みがなされている。アトンは『ロランの歌』と『偽チュルパン』におけるシャルル大帝の12臣将の一人、オリスタンはラテン語版『偽チュルパン』に登場するブルターニュの王か公であるという。（Voir ed. G. Gouiran, *L'Amour et la guerre, op.cit.*, pp. 438-440.）

¹⁹ 「アルプスからロンスヴォーまで」と訳出した部分（v. 26）も、写本のテキストは不完全なため、様々な読みの試みがなされている。（Voir *ibid.*, pp. 441, 442.）

²⁰ 底本の校訂者 G. グイランは、v. 34の « e mai » (v. 34) を「今後も、変わらず」（本稿の訳）の意に解釈する研究者もいるが、「五月に」としか解釈の仕様がなしていない。しかし、アーサー王が五月に死者の国アヴァロンから帰ってくるという伝承は他に確認できないとも述べている。（*ibid.*, p. 442.）

²¹ 「思い上がった人たちも」以下は、写本では « qe si dont eron descuiat / escen e sobrier e maint / el retenia doble grat / daquelz qi lavion vezut »。v. 46の « escen » のとり方によって解釈が変わる。訳文は、G. グイランによるこれを « escien » 「故意に」と解釈し、「« Qe so dont eron descuiat / Escien e sobrier e main, / El reteni'a doble grat / D'aqelz qi l'avion vezut. » としての読みによる。（「二重の賞賛」とは、単に美德を持っているというだけでなく、その美德が大きな困難なしに身につけられないものであることと解釈する。）同じ語を « ensem » 「一緒に」の意味として、該当箇所を « Qe si dont eron descuiat / escen e sobrier e main, el retenia doble grat daquelz qi l'avion vezut. » と読む W. D. ベイドゥンらの版に従って訳出すれば、「高貴な者も力のある者も関心が持たれないご時勢だというのに、あの方は彼を見た人から[高貴で力があるという]二重の賞賛を受けていましたから。」となる。（Voir ed. W. D. Paden, Jr. T. Sankovitch and P. H. Stäblein, *op. cit.*, pp. 350-351.）

II

今後は自分の国に留まりたくありません。私を喜ばせることができるものがここには見つかりませんから。ああ、どうしましょう、これ程に絶望をしている私は。心を陽気にしてくれるものが見つかりません。これ程に大きな悲しみを持っていては。励ますことができないほどに深刻なのです。今後、彼女のような人と会うことは思いませんし、死がこれ以上の打撃を私に与えることは全くあり得ませんから。

III

ああ、主なる神よ！ あなたに満足しているとは言えません。もし私に力があれば、あのような人は生き続けさせていることでしょうか。自分のために彼女を留めておこうと望むことでしょうか。ただ、比類するものが見つからない偉大な善良さ、あの人のしとやかで礼儀に合った素晴らしい人柄、彼女が持っていた大きな値打ちと価値に見とれるために。

IV

ああ！ 私はどんなに辛い思いでいることか。どれだけ悲しんでいるか、どのように過ごしているかを表に出すことができないのですから。私は見た目よりも悲しんでいます、それも当然です。死もこれ以上に大きな苦しみを私に与えることは決してあり得ませんから。嘆く理由が十分にあるのです。真実の主は、彼女の魂を護って下さいますようお願いいたします。あの世で、聖ヨハネの御前に置いて下さいますように。

V

これからは、あの人の優れた値打ちを十分に褒めることができます。あの人以上に、婦人が値打ちのあるものに対してよく振舞うのも、自分に相応しいことを、できることに応じて、よく行うのも見たことがありません。行いにおいても、話すことにおいても、他人を喜ばせてくれる人でした。これは、誰も全く疑わないところです。ですから私は、今後は偽ることなく、ずっと彼女を愛するのです。

VI

卑しい世界よ、お前は偽り以外の何でも無い。お前を見るほどに、軽蔑するようになる。

ギエム・デ・サント・レイディエル
(Guilhem de Saint-Leidier)
Pois major dol ai que autre chaitius
(PC234,15a)

底 本：*La lírica de los trovadores, antología comentada por Martín de Riquer, t. 1, Barcelona : Escuela de Filología, 1948, pp. 384, 385.*

死者：詩人の友人ユーゴ (1190年頃)

詩型：a10 b10 b10 c10 d10 d10 c10 (Frank 743 : 1)

I

他の不幸な人たちよりも、僕は大きな悲しみを持っている。喜びと歌には別れを告げよう。友なるユーゴよ、友情に満ちた素晴らしい仲間よ、君が死んだから、僕には笑いも気晴らしも陽気な気持ちも歌も、どうでもよくなってしまっただろう。今後は泣きながら君のことを語るものだから、思うに、みんなは僕を悪く思うに違いない。

II

ああ、優しい仲間よ、君の澆刺さはなんと早く過ぎ去ってしまったことか。僕は悲しく打ち沈んでこの世に残る。自分は他の仲間たちといっても孤独だと感じている。一体、君なしで気晴らしをすることができるのだろうか？ 僕には無理だ、キリストに誓って。むしろ、偽ることなく君に約束する。死者がどこに行くか知っているのなら、君に会うために生者を全て置いていくだろうと。

III

勲高くて名の通った高貴な騎士よ、賢くかつ狂っており、謙虚かつ傲慢で、鷹揚で、金離れが良く、盛んで、気前の良かった君よ、つまらない価値のものにあれほどの財産を差し出した者はかつていなかった。宮廷作法の華よ、私が見るところ、君は、かつて誰もこれほど恵まれたことがない程に良い資質に恵まれていた。今後、君ほどに価値がある人が出てくるのは難しいだろう。

IV

ユーゴよ、君が生きていた時、僕に言っていたね。僕たち二人のうちで先に死んだ者が残った方に話しかけるようにしよう。僕も同じことを言ったことだろう。死や他のことが君がそうするのを妨げるということがどうして起こり得たのか？ 僕は夢で君を見たというのに、君は僕に話しかけなかったね。僕なら、君に話しかけたことだろう。いや、とても馬鹿なことを言ったものだ。友よ、君がそうできないことはよく分かっているよ。

V

良き主である神よ、栄光に満ちた慈悲深い王であり、御自ら赦しを与えてくれる慈悲に満ちた方よ、慈悲の王よ、危険で困難な日²²に私たち二人を天国で会わせて下さい。聖ペテロと聖ヨハネが、もしも天使たちがいるところに彼を置かないとすれば、しくじりというものでしょう。あれほどに礼儀正しい人を手元に置いたことはありませんから。

フォルケト・デ・マルセーヤ

(Folquet de Marseille)

Si cum cel q' es tan greu jatz (PC155,22)

底本：ed. S. Stroński, *Le troubadour Folquet de Marseille*,
Krakow : Académie des sciences, 1910, pp. 73-77.

死者：マルセイユ副伯ライモン・ガウフリディ・バラル
(1192年没)

詩型：a7 b7 b7 a7 c7 d7 d7 c7 b8 b8 c8 (Frank, 626 : 1)

I

あまりに災難に苦しんだために痛みを感じなくなった人のように、私は憤りも悲しみも感じません。それ程にも分別を失ってしまっています。損害は私が心に描くこともできない程に大きくて、誰も、経験してみないことには、私の良い主君であるバラル殿 [の死] によってもたらされた損害がいかに大きいかわかることはできないのですから。そういう訳で、もし私が歌ったり笑ったり嘆いたりするにしても、そうすることに、かつてなら評価したであろう程の値打ちがあるとは思いません。

II

あの方の偉大な値打ちが見当たらないので、私は魔法にかけられているのではないかと勘違いしているのではないかと考えているのです。あの方は、私たちが名誉を与えられてあるようにと支えてくれていましたから。磁石が鉄を引き付けて、立たせるのと同じように、あの方は多くの傷つけられ悲しむ人たちを、値打ちに向けて立ててくれていました。私たちから値打ち、喜び、名誉、分別、気前の良さ、幸運、富を奪った者は、私たちの利益をあまり喜ばない人です。

III

ああ、あの方の愛において、皆が豊かだったというのに、どれだけの人々を不幸にしたことでしょうか。あの方が亡くなって埋葬された日にどれだけの人々が死んだことでしょうか。わずか一日であれほどに人が死んだことは

ありません。あの方の名前が呼ばれるのを聞いただけの者でさえ、そのことで利益を得ようとしたものです。あの方の値打ちは、それだけ目立ったものでした。あの方は自分の名前を小さいものから大きいものに、大きなものからもっと大きなものへと高めたので、名声を境界のうちに留めておくことができない程でした。

IV

ああ、優しくて親愛なる殿よ、どのようにすればあなたへの賞賛を言い表せるのでしょうか？ 汲めば汲むほどに湧き出る泉のように、あなたの榮譽は、考えれば考えるほどに増えていくのです。私は言うべきことがますます多くあることに気がつくのです。あなたの与えっぷりは、それに似ています。求める人が来れば来るほどに与えたいという欲求が増していったものです。しかし、神は、よく与える人にそうするように、あなたにはいつも千倍のものを与えていたのです。

V

今や、あなたは一番の高みに上った時、花のように落ちてしまいました。花は、人が一番美しいと見ている時に、さっさと落ちてしまいます。しかし、神はたとえ話を用いて、私たちが神だけを愛さなくてはならないことと、人が通りすがりのものとして過ごすこの惨めな世のことは憎まなくてはならないことを教えているのです。神の命令をなす人たち以外の値打ちは不名誉に転じ、分別は物狂いに転じるわけですから。

VI

麗しき主君である神よ、あなたはいかなる罪人の死も喜ぶことはありません。むしろ、罪人の死を打ち消すために、ご自身の死を穏やかに受け入れて下さったのです。あの方が、あの世で聖人たちと共に暮らせるようにしてあげて下さい。あなたがこの世にあの方を置いておきたくはなかった以上は。また、処女マリアよ、あなたは、神に祈ってあげて下さい。あなたは、たくさんの人たちのことを、あなたの息子に祈って下さいますが、そのお陰で神が彼らをお救い下さるのです。最良の者たちは皆、あなたの大切に慈愛に満ちた祈りに希望を持っているのですから。

VII

主よ、なんとということでしょう！ 嘆いているべきであろう時に、あなたのことを歌えるだなんて。しかし、私は思いの中では、大いに嘆いているのです。多くのトルバドゥールは、あなたについて、簡単にもっとたくさん賞賛を言うことでしょう。私は、その千倍を言うべき

²² 最後の審判を指すものと考えられる。

だというのに [言えないのです]。

ギラウト・デ・ボルネーユ (Guiraut de Borneil)
Plaing e sospir (PC242, 56)

底本：ed. R. V. Sharman, *The cansos and sirventes of the troubadour Giraut de Borneil*, pp. 409-414.

死者：リモージュ副伯アイマール五世 (1199年没)

詩型：a4 b4 c8 c8 d8 d8 e4 f6' d8 g8 f6' (Frank 830 : 1)

I

私は嘆き、溜息をつきます。泣いて、歌います。でも、歌っても気が晴れません。むしろ、歌えば歌うほどに悲しくなり、心と理性を弱くしてしまいます。歌は、いつもは苦痛や心配を遠ざけてくれるものですから、歌を聴いて苦しくなった人が、自分の理性や振る舞いがおかしくなってしまったのではないかと恐れたとしても、私は驚きません。

II

どんなに知恵があつて慎重な人であっても、不機嫌にならないで、この世に悪人が残つて、助けも救いもないことを耐えることができるでしょうか？ 秤を良い評判の方へと傾ける高貴な人々、雅な人々、優れた人々は簡単に死んでしまうのです。我が主君アイマール殿がそうでありましたように。フランスはあの方のことを嘆くのでしょうか？

III

誰が悲しみや損害について語れるでしょうか？ 豊かで教養のある良い主君が、長い間、導き、愛し、世話をしてきた家来から旅立って、帰って来る望みや期待はないというのに。もし、あの方を取り戻せるということ、いくらか信用しているのであれば、これほどの憤りはなかったでしょうから。ですから、悲しんだり心配するのは当然だし、礼節に適ったことなのです。

IV

しばしば考え、思い続けていることなのですが、それぞれ折に触れて現れる陽気な馬鹿騒ぎや、名声や知恵や富は、なんとあの方に似合っていたことでしょう。心地よい付き合いということでは、あの方に並ぶ者を見つけることはできません。数多くの美しい礼儀作法の点においても。そのために喜びは消え、雅やかな冗談は少なくな

り衰えてしまうのです。

V

あの方が人を迎えるに際しては、一番疎遠な者も親密な人のように見えたことでしょう。とはいえ、人の迎え方を見れば、あの方の値打ちがよく分かったことでしょう。怒って話す者がいて、あの方の気分を害したとしても、思慮に欠けた馬鹿者だと思って陽気に過ごすことができたことでしょう。怒りや揉め事は、知恵を子供の分別のようにしてしまうというのに。

VI

あなたがたにこう請け合つても、不都合はありません。あの方は、強大な権力者の間にあつて、値打ちと知恵ゆえに褒められ、賞賛されていました。さらに、もし身分の低い人々といたとしても、彼らの名誉や長所を認めることができたことでしょう。人が自慢をしているところでは、お高くすましていましたが、率直な人たちは率直に話しました。

VII

私には、これほどに知りたいことはありませんし、これ以上に知って嬉しいことはありません。正々堂々と軍を率いた人々の中では²³、彼が一番賞賛されたのではないかと、自分の失敗に対して、最も率直だったのではないかとということです。大きな事業の中では、小さな間違いは大した災いにはなりません。自らの過ちを認めて、己を責めるのであれば。だから、私はあの方の間違いは許されると信じています。このことについて、神に希望を持っています。

VIII

あの方の魂に休息と平和を与えて下さい、と祈る人たちに対して、神が耳を傾けて下さいますように。また、神が横たえられた聖墳墓—あの方が、大変にうやうやしく接吻しているのを見ました—が、あの方の良い守護者になってくれますように。あの方よりも勲高い騎士が槍を持ったためしはありませんし、また、それがあれば賞賛されたり、名声が上がったりするというような長所の全てと一緒に持ったためしありません。

IX

あの方を無から創りたもうた神よ、輝く天使と一緒に、あの方が喜びの分け前にあずかれるようにして下さい。

²³「軍を率いる」は、底本の校訂者 R. V. シャーマンによる。写本の « que lor meneran leiamen » を « que l'ost meneron leialment » と修正して、この詩連が失敗に終わった第三回十字軍を暗示しているとする読みによる。(Voir ed. R. V. Sharman, *The cansos and sirventes of the troubadour Giraut de Borneil*, p. 414.)

ガウセルム・ファイディト (Gaucelm Faidit)
Fortz chauza es que tot lo major dan
(PC 167, 22)

底本：ed. M. de Riquer, *Los trovadores*, t. 2, pp. 770-773.

死者：イングランド王リチャード1世 (1199年没)

詩型：a10 b10 a10 c10' c10' b10 b10 d10 d10 (Frank 444 : 1)

I

難しいことです。ああ、かつて経験した中で最大の打撃と最大の悲しみのことを、これからも常に泣いて嘆いていくのが当然であることを、歌にして述べ、語らなければなりません。値打ちの頭目であり、父であった方、強く勲高いリチャード、イングランド人の王が亡くなったのです。ああ、神よ。なんとという喪失、なんとという打撃でしょう。なんと耳慣れない言葉、なんと粗野な言葉を聞くことでしょう。こんなことに耐えられる人は、よほどに動じない心を持っているというものです。

II

王は亡くなりました。これほどに勲高い人物がいないうまま、誰も見ていないままに千年が過ぎました。また、あの方に似た人物、あれほどに気前よく、勲高く、勇敢で、物惜しみをしない人を見る者はこれからも誰もいないでしょう。ダリウスを打ち破った王であるアレクサンドロスも、あの方ほどに多くものを与えたり金銭を使ったわけではないし、シャルル大帝もアーサー王も、あの方ほどに値打ちがあったというわけではないと思います。本当のことを言えば、あの方は、世界中の人から恐れられているか敬われているかのどちらかだったのです。

III

驚きです。このふざけた偽りの世の中で、知恵と礼節のある人がどうして存在しえたのでしょうか。美しい言葉も、立派な行いも何の価値も持たないのですから。そうだとすれば、人はどうして、ほんの少しでも努力をするのでしょうか。一撃によって、この世で最良の人、全ての名誉、全ての喜び、全ての善を奪い去ることで、「死」は、このたび、自分が何をできるかを示しました。誰もこれからは逃れられないことが分かった以上は、死ぬことをこれまでほどに恐れるべきではないでしょう。

IV

ああ、勲高い王よ、今後は、武具にも、激しく喧騒に満ちた模擬試合にも、豊かな宮廷にも、高級で多大で素敵な贈り物にも、何の意味があるのでしょうか。こういったことの頭目だったあなたがいらないのですから。苦悩に明け暮れる人たち、すなわち、褒美がやって来ることを期待して、あなたのお陰であなたのお陰で大変に裕福になったけれども、そうでなければ死んでしまったであろう人たちはどうするのでしょうか。

V

長い悲しみと、惨めな人生と共に、かくして自分たちののもとにやって来た痛みを、彼らはずっと持ちつづけることでしょう。あなたのことを〔他のどの〕母親から生まれた人よりも恐れていたサラセン人、トルコ人、異教徒、ペルシャ人の傲慢さと事業が膨らむこととなり、聖墳墓の征服は先延ばしにされてしまうことでしょう。しかし、神がそうお望みなのです。もしも、神がそうお望みではなく、殿よ、あなたが生きていたのであれば、間違いなく奴らはシリアから退散する羽目になったことでしょう。

VI

今後、彼ら〔= イングランド人〕が、あの方の埋め合わせをすることができる王や君主を持つという希望を、私は持っていません。しかし、あなたの地位につく人は全て、あなたがいかにかに値打ちを愛する人であったか、また、あなたの二人の勲高い兄弟である若王と礼節を知るジョフロワ²⁴がどのような人物であったかということ覚えておくべきです。そして、あなたがた三人の地位に留まるであろう人²⁵は、よき行いをなし、援軍を求める²⁶け高い心と確固とした心がけを持つべきです。

VII

ああ、神よ、真実の救い主、真実の神、真実の人、真実の生命である方よ、お慈悲を。あの方を許してあげて下さい。あの方にはそうしてもらう必要があるし、それも急いでしてもらわなくてはならないのです。主よ、あの方の過ちのことは忘れて、あの方がどのようにしてあなたに仕えるために〔聖地に〕行ったかを思い出して下さい。

²⁴ 若ヘンリー公とブルターニュ公ジョフロワ二世のこと。(本稿中のベルトラン・デ・ポルンの3つのプラージュの主題になっている)

²⁵ リチャード1世(獅子心王)の王位を継承したジョン(失地王)を指す。

²⁶ 写本によって様々な読みのある箇所であるが、底本の「de socors chauzir」は、新たな十字軍のためにジョン王が「援軍を求める」べきだという解釈から採用されている。(Voir ed. M. de Riquer, *Los trovadores*, t. 2, p. 772.)

ガヴァウダン (Gavaudan)
Crezens, fis, verays et entiers (PC174, 3)

底本：ed. S. Guida, *Il travatore Gavaudan*, Modena :
 S.T.E.M. -Mucchi, 1979, pp. 208-229.

死者：「わが奥方」(1200年頃)

詩型：a8 b8 b8 c8 c8 d8 d8 e8 (Frank 714 : 1)

I

私は、いつもわが主君〔である奥方〕を信頼し、忠実で誠実で完璧でした、殿方よ。あの方も私にたいそうよくして下さり、あの方から来る喜びを一日として私から奪うことがありませんでした。ああ、不幸が私からその喜びを奪ったのです。不幸は万人をからかう術を知っています。不誠実な死よ、私ともわが主君〔である奥方〕を引き離すとは。神があの方をお護り下さいますように。

II

私が先に死ぬ方が良かったでしょうに。喜びもなく、悲しみと共に生きるよりは。かつていた中で、また、今後いるであろう女性の中で一番美しい方を失くしてしまったのですから。そのせいで、怒り、悲しみ、動揺しているのです。死よ、どうしてわが主君〔である奥方〕を殺すなどということができたのか？ 万人があの方の美しさに喜び、喜びに見とれたに違いないというのに。

III

奥方よ、あなたを望む思いは、私に喜びの味をもたらしてくれていました。今や、喜びは私には価値のないものであり、私を救ってくれません。悲しみが心に重荷を負わせるからです。立っている時は、わが身を倒れるがままにしていますが、それでもわが身を傷つけたり、壊したりできずにいるのです。奥方よ、悲しみをもって狂うよりは、喜びをもってあなたと死にたいものです。

IV

私の物思いはむごいもので、夜も昼も嘆き、溜息をつき、泣いています。惨めな男、愛に恵まれない人、喜びもなく、苦しんでいます。悲しんで我が身を養っているからです、額や頬にそのことがよく現れています。悲しみのせ

いで、若くて金髪だったのが、老いて白髪になり、倒れ、起き上がり、震え、生きながらに死んだように暮らしています。

V

もはや、澆刺としていることはないでしょう。値打ちも価値も失ってしまいましたから。神が私を、喜びもなく不名誉な状態のままに生き延びさせることのないようにと願います。毎日、終わりに近づき、衰えていきます。悲しみが心から出て行くことができないからです。心を明るくするために、喜びのことを考えると、分別はすべて失われ、自分ではいられなくなるのです。

VI

他の女性から来る喜びは全て、私には煩いになります。それだけ、心が悲しみに満ちているのです。恥じらいも恐れも失ってしまいました。飲んだくれの酔っ払いは、錯乱して歩みます。神は、身を肥やすものを私に与えませんが、私が愛に仕えることを二度とお許しになりませんように。物思いに沈む心を萎れさせてしまいたいのです。ずっと、つがいのいないキジバトのようなものでしょうから。

VII

奥方よ、大いなる喜びと大いなる歓喜が、聖ヨハネが語ったように、[神の] 賞賛をする天使たちと共に、あなたをあの方の天の高みの座に置きますように。若い者も年老いた者も²⁷、中傷者は何一つとして、あなたのことを悪く言えなかったし、私も[十分には]あなたの良い行いを語ったりお話ししたりすることはできないでしょうから。

VIII

イエスがあなたを仕えさせて、明るい天国で輝かせますように。乙女たちの間で冠を被らせますように。

IX

ガヴァウダンは、嘆きと悲しみを止めることができず、ひどく苦しんでいます。何事も決して彼を励ますことはできません。

²⁷ 底本では、« brus ni says » 「褐色であれ、灰色であれ」。校訂者の p. 227 の注に従って「若い者も年老いた者も」とした。